

農林水産省における再生方策等の取組状況

タイラギの取組のイメージ

有明海漁業振興技術開発事業

西海区水研から各県へ技術移転

種苗生産

着底稚貝
(~2mm)

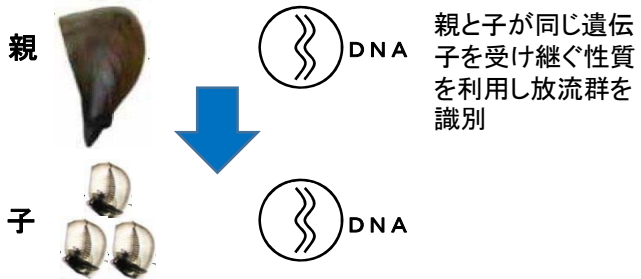


中間育成

移植用稚貝
(~5cm以上)



DNAによる親子判別技術の開発

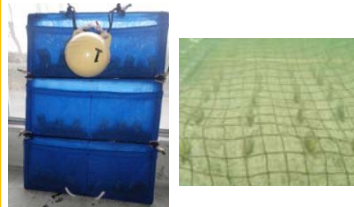


有明海特産魚介類生息環境調査

西海区水研から各県へ技術移転

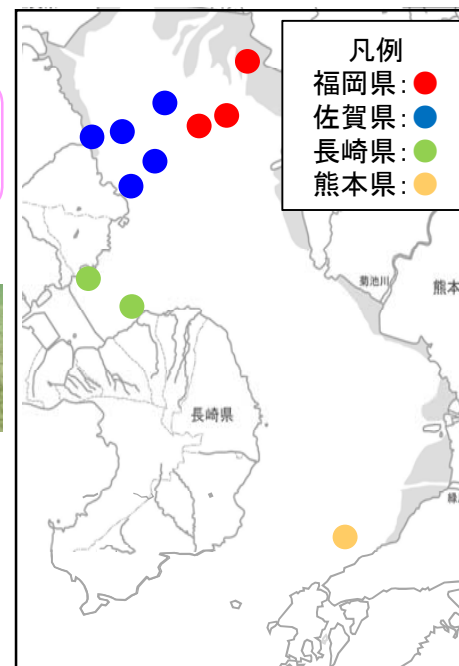
母貝団地

人工母貝団地の造成
<海域への移植>



海中育成ネット 直植え

※種苗生産の状況に応じて、既存漁場等へ放流
※西海区水研は調査・解析手法等の助言で協力



母貝団地の造成エリア

有明海水産基盤整備実証調査

(効果的に餌料環境の改善を図る漁場整備に関する実証)



中間育成された人工種苗の移植



浮遊幼生調査・生息状況調査等により効果を把握

広域的なネットワークの形成

アサリの取組のイメージ



- 有明海特産魚介類生息環境調査の想定エリア
- 有明海漁業振興技術開発事業の想定エリア
- 有明海のアサリ等の生産性向上実証事業の想定エリア

有明海特産魚介類生息環境調査 (広域的なネットワークの強化)

浮遊幼生の
着底場所

密度管理
・
資源管理



移植・放流



保護区設定



養殖

各々の海域環境に応じた適切な組合せで対策を実施



採苗(網袋等)



覆砂



耕耘



食害防止対策

有明海漁業振興 技術開発事業 (リスク管理としての 種苗生産技術の強化)



中間育成

有明海のアサリ等の生産性向上実証事業 (生産性向上のための技術的課題の解決)



貧酸素水塊軽減
(カキ礁の再生)



稚貝育成技術



母貝場造成技術



稚貝移植技術

浮遊幼生調査・資源調査等により効果を把握

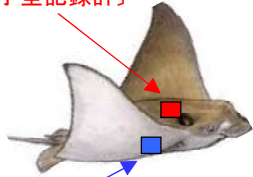
広域的な再生産サイクルの形成

ナルトビエイ調査のイメージ

有明海特産魚介類生息環境調査

バイオロギング

〔小型記録計〕



〔超音波発信機〕

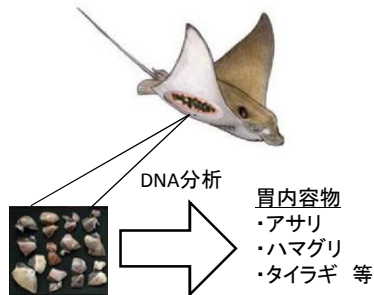


漁業者の協力による回収



環境DNA解析

- ・来遊量の推定
- ・天敵生物の把握
- ・餌の特定



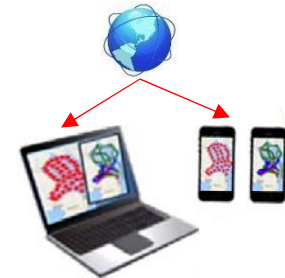
データ集約・解析

〔リアルタイムデータ〕
※超音波受発信機

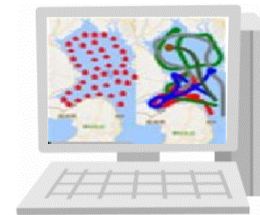


- 漁船及び観測檣に取り付け
た受信機から観測データを
サーバーに送信
- 漁業者等へ情報提供

～想定される活用の例～



〔回収データ〕
※データロガー



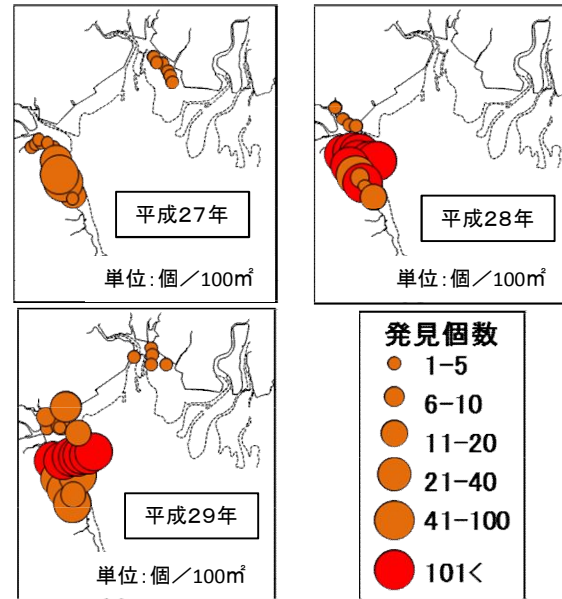
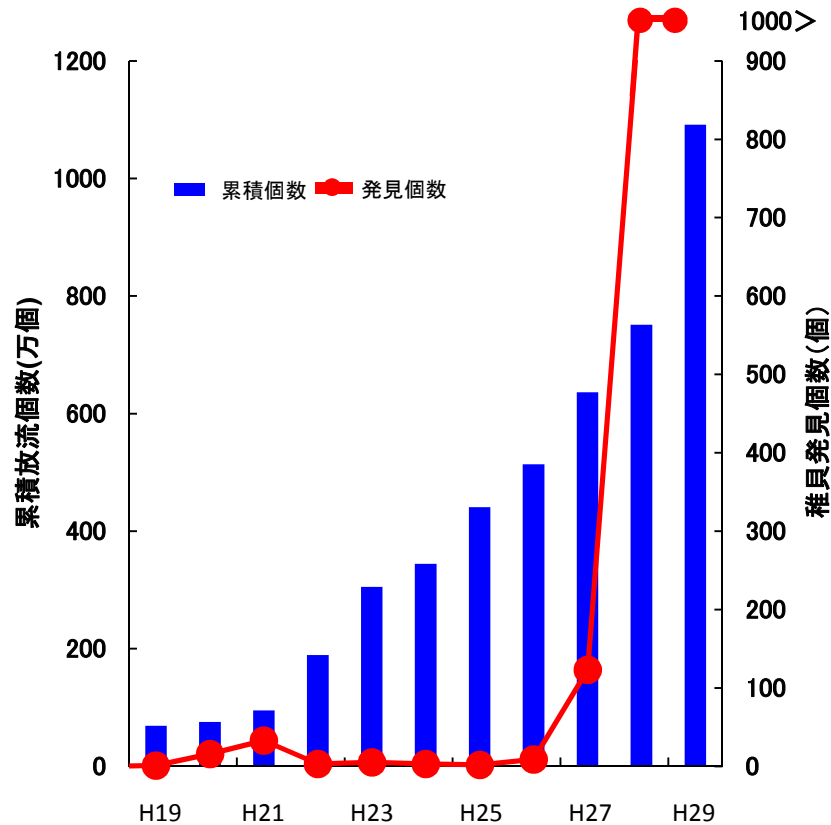
- サーバーに観測データ
を集約し、リアルタイム
データと併せて解析

※バイオロギング: バイオ(生き物)+ロギング(記録する)。生き物に記録計を付けて生物の活動状況等を把握すること
※環境DNA解析: 生物の皮膚(ウロコ), 糞尿, 粘液など水中に存在するDNAを用いて、生物量等を把握すること

アゲマキの取組のイメージ

有明海漁業振興技術開発事業

- 8mmサイズの種苗をH27年は115万個、H28年は337万個、生産・放流
- 佐賀県鹿島市地先では放流貝から生まれた稚貝の大量発生が確認され、資源回復の兆し



佐賀県沖におけるアゲマキの発見個数
※48地点(8地先×6地点)の調査による



放流試験区画



放流漁場の生残個体

かつての漁場である福岡県地先にも拡大し、
資源回復の取組を加速化